

## &lt;別紙1&gt;

## 第三者評価結果報告書

## ①第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

## ②施設・事業所情報

名称：にじいろ保育園青葉台	種別：保育所
代表者氏名：園長 桑原 喜美子	定員（利用人数）： 70名
所在地： 〒227-0062 神奈川県横浜市青葉区青葉台1-19-15	
TEL：045-482-6844	ホームページ：https://www.like-kn.co.jp
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2014年6月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：ライクアカデミー株式会社	
職員数	常勤職員： 18名 非常勤職員 7名
専門職員	園長 1名 保育士 18名
	看護師 1名 栄養士 2名
	事務員 1名 調理師 2名
	委託医 1名 委託歯科医師 1名
施設・設備 の概要	(居室数) 10室 0～5歳児室・事務所・給食室・ 休憩室・相談室 (設備等) 全館冷暖房完備・木（檜）の暖かいお 家のような造り・エレベーター設置・ 誰でもトイレ設置

## ③理念・基本方針

保育理念は『のびやかに育て だいちの芽』です。あたたかな環境の中で、1人ひとりの心に寄り添い、人や物・自然との豊かな出会いや体験を通して生きていく力を育てます。大きくあたたかな大地から出てきたばかりの小さな芽。私たちは子どもたちに「大地にしっかりと根を張り、のびやかにたくましく育ち、やがて思い思いの『花』を咲かせてほしい」と願っています。そのためには興味関心のあることにチャレンジする子どもたちの「勇気」を応援しうまくいったときには共に喜び、失敗した時には悔しい気持ち・悲しい気持ちを受け止めることのできる「あたたかな空間（いえ）が欠かせません。家族、友達、子ども達を見守る私たち。そして世界中のいろいろな「人」。子どもの好奇心を掻き立てる、おもちゃ、絵本、絵の具、楽器、ラップン芯や牛乳パックのような身近な素材など様々な「物」。土、雨や風、植物、動物、石ころなどの「自然」。私たちは、これらの環境を計画性と柔軟性の両面をもって整え、子ども達が自らの感性を育み、主体的に遊び、体験し、考えることを応援し、そのことで一人ひとりに「生きていく力」を育てていきます。

## ④施設・事業所の特徴的な取組

当園は静かな住宅街に立地し、園庭があり、子どもたちは青空の元、元気に活動できている。固定遊具はなく子どもたちがしたい遊びを自由に組み立てて遊べるようにしている。中でもタイヤや板を使っの遊びが盛んで、タイヤを転がしたり重ねたり立てかけたりしていろいろな物に見立てて遊んでいる。タイヤを積み上げての山登りを子どもの意思で展開したり、タイヤに板を渡して様々に渡って遊びながら体幹が鍛えられてる。

この日常の遊びがやがては鉄棒や跳び箱、マット運動などの力に繋がっていくものと考えられる。また、地域の子育て支援などでは園庭で泥んこ遊びを行ったり、1, 2歳児クラスと交流して砂遊びやタイヤ遊びを楽しんだりしながら毎回楽しく参加してもらえている。そして参加保護者の悩みなどもその機会に気楽に保育士に相談してもらえるように関わっている。植栽や花は年中絶やさないように環境設定している。栽培では夏には夏野菜、冬には冬野菜を育て観察をしたりクッキングしたりして食育活動を行っている。その時折々に植物に寄って来る昆虫なども子どもたちの興味のあるところで、触ったり、図鑑で調べたりして自然を育んだ活動が日常にできている。さらには、造形教室と体操教室を外部講師で行っており、日頃の活動に加えてより専門の指導を受け、より質の高い保育を目指すことができていると思われる。子どもがのびのびと自己表現をして、自主的、主体的に活動していけるよう環境を常に考えて保育をしている。

### ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2021年5月28日（契約日） ～ 2021年12月24日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2016年度）

### ⑥総評

#### ◇特に評価の高い点

- 子どもたちが主体的に活動できる環境づくりや、遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している子どもたちが主体的に活動できる環境づくりのため、保育園独自の日々の連絡表に各クラスの主活動、内容、ねらいを記入して全職員が共有し連携して活動している。製作活動ではトイレットペーパーの芯など廃材を使い、切ったり、つなげたりして子どもが作りたいもののイメージを共有しながら作品を作る事を楽しめるよう工夫している。子どもの自由遊びから発展したハンバーガーのデリバリーごっこなど、行事計画ではなく子ども遊びから発展したものをイベントとして活かす工夫をしている。保護者からは、「家ではできない遊び、友だちの関わりなどすごく貴重な時間を過ごしています。」などの言葉もあり、遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。

- 子どもの食への興味・関心を深める、様々な食育活動に取り組んでいる子どもが楽しく落ち着いて食事をとれるように保育者の動きを考えて介助し、言葉を添えて味わえるようにすすめている。季節を感じられる旬の食材を取り入れたり、イベントの時には行事食にしたり、お誕生日会の時にはお誕生月の子にお誕生日プレートで給食を提供している。年長クラスには当日食べた給食を栄養士と一緒に三色食品群に色分けして、栄養についても意識付けている。園で栽培したナスやキュウリなどの野菜を子どもと一緒に収穫し、栄養士が子どもたちの見える前で栄養の話や調理しながら提供するなど食育を行っている。また、保護者には毎月の給食だよりに、給食で人気のメニューや家庭で作りやすそうなメニューを載せて子どもとの会話につなげている。

- 職員会議、記録物などを通じて職員間のコミュニケーション、情報共有に力を入れている毎日、短い時間でもミーティングを行い、情報の共有と問題の解決を行っている。職場は風通しの良い環境であるよう、常に相談し合ったり、報告し合ったりして職員間の共有に心がけている。月1回の職員会議ではカリキュラムの検討や評価を中心に、行事の話し合いや研修報告なども行っている。記録は日々の保育日誌に、その日のねらい、活動、内容評価などを記載している。また、連絡帳を作成して家庭との情報交換も行っており、子どもの心身の状況を詳しく記載することになっている。職員同士の交流を大切

にしており、園長・主任を中心に声かけしあっている。

#### ◇改善を求められる点

・新たな生活様式の中でも、ゆったりとした園運営を目指しているこれまで行ってきた保育園運営の日常が新型コロナウイルス感染症の発生によって、新たな生活の仕方へと転換しなくてはならなくなった。安心と安全を確保し、保育園を利用していただく方々の協力をも得て、皆が安心して過ごせる環境作りとたゆまない努力をしてきたと園では自負している。これからも更に社会の動向を注視しながら運営していくが、以前のようなゆったりとした保育園を取り戻すことは、まだまだ多くの課題があることを認識している。

・保育士と保護者が協働し保育園がもっと活力ある場所になることを目指している保護者には保育参加を企画し、子どもと一緒に過ごしてもらう機会を設けている。子どもや友達との関わりを身近で見てもらい、保育者の声かけなどを育児の参考にしてもらっている。時にはパパ先生やママ先生になってもらい保育の体験などを取り入れている。また、保育参加の直後に個人面談を行い、日々の子どもの成長や保育内容について共有したり保護者の悩みなどを一緒に考えたりしている。今後は保護者が自主的に参加できる行事等の企画を検討し、保育士と保護者が協働し保育園がもっと活力ある場所になることを目指している。

#### ⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

この度、第三者評価を受けることになって、まず平成28年度に受けた第三者評価を遡った。開園して3年目、保育の評価はとても良く、職員一同、やり甲斐を感じたことを記憶している。ただし、地域の情報収集や保育園PRも足りていなかったことを踏まえ、「地域の子育て支援の一端を担うこと」を課題として取り組んだ。努力の甲斐あって、近年では地域の子育て支援や地域交流も充実し、周りの保育園や支援施設と協同することも出来てきた。昨年度は新型コロナウイルス感染症の発生により中止をした企画もあったが、今年度は社会状況を見ながら規模を縮小したり、時期を延ばしたりして行い、徐々に成果を上げてきていると考える。

今回の第三者評価受審では、これまでの保育を一つ一つ振り返って確認し、共有したり共感し合ったりすることが出来たことはとても良い経験になり、コロナ禍においてもできることはしっかり行っていきたいという職員の意欲が生まれてきた。子どもたちのために、保育園を利用してくれる人のために、また、保育園がどうであったらよいのか運営においても様々な場面で考えさせられた機会でもあった。これからはさら保護者との協力関係を深めて協働していけるようにしたいと考える。この評価結果によって、また新たな課題をもち、切磋琢磨して保育を充実させ、職員の一人ひとりがやり甲斐をもって資質向上に努められるように、効果を発することを期待してやまない。

#### ⑧第三者評価結果

別紙2のとおり